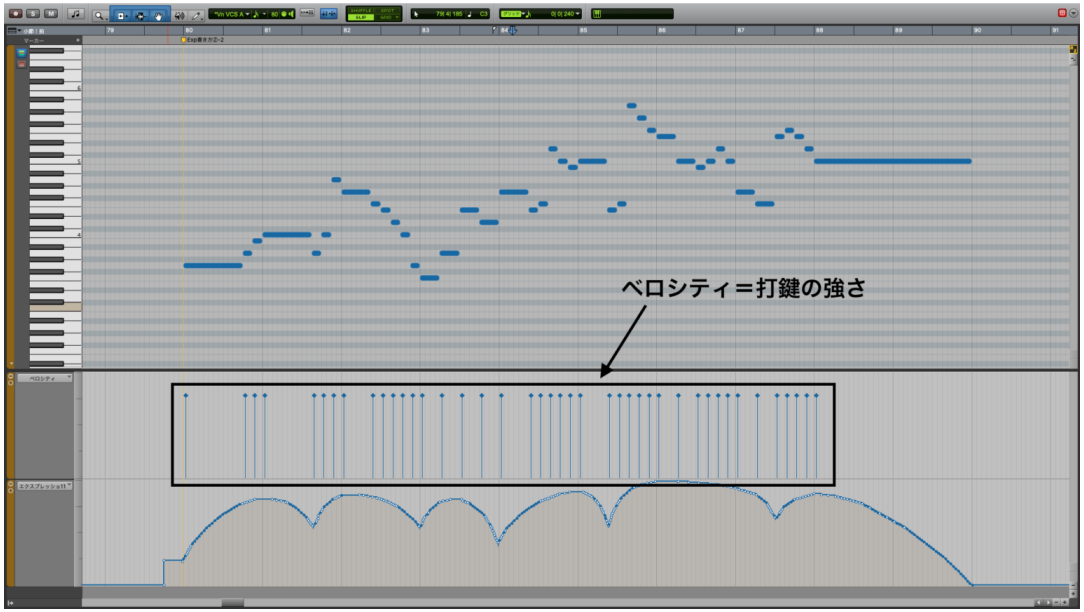
3-2
ホーンセクションのベロシティ

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO

OTO×NOMA

ベロシティの基本

ノート（音）の強さのこと。（正確には「打鍵の速さ＝強さ」）。ノート1音ごとに値が割り振られているため、コードなど複数音同時に演奏した際にも、個々の音に強弱をつけることができる。ピアノやドラムなどの打ち込みで欠かすことのできないパラメータ。



©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO

OTO×NOMA

ベロシティの特徴

①ノート1つ1つに強弱を設定可能

②打鍵のタイミングで決定し、その後は変更不可

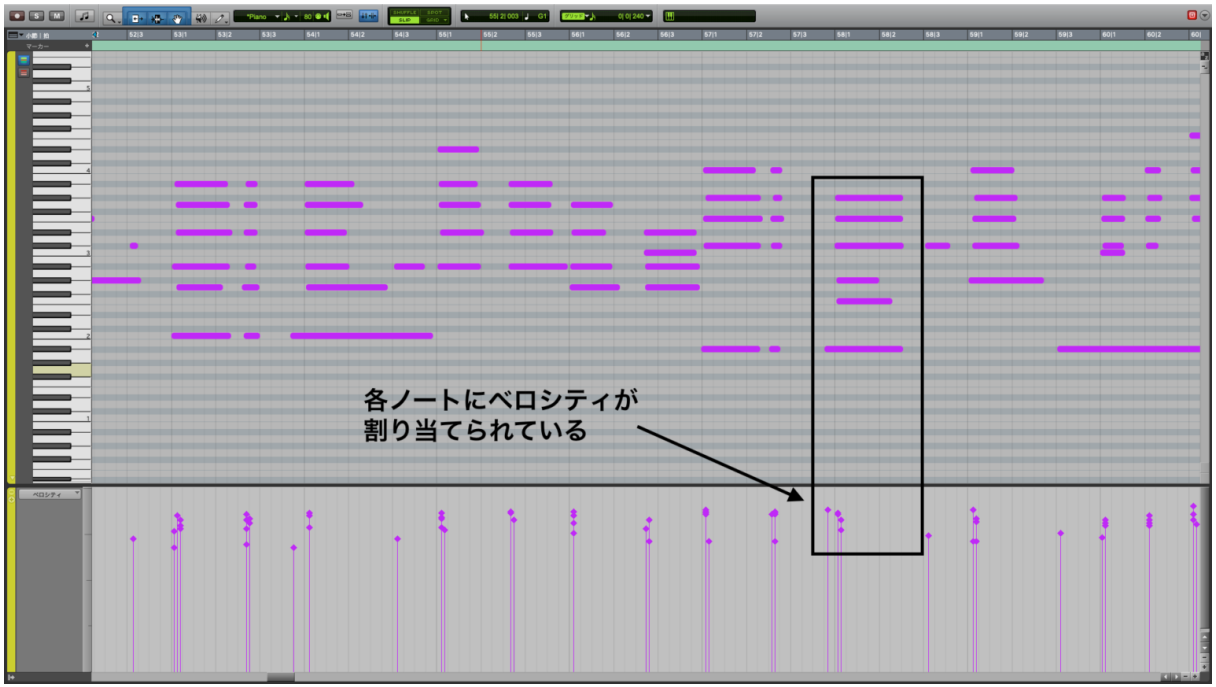
③ベロシティによって音色も変化する

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO

OTO×NOMA

① ノート1つ1つに強弱を設定可能

ベロシティはノート1つにつき1つの値を設定可能。そのため、コード楽器やドラムなど、複数の音を同時に鳴らすことの多いパートでも、1音ごとに強弱を設定することができる。

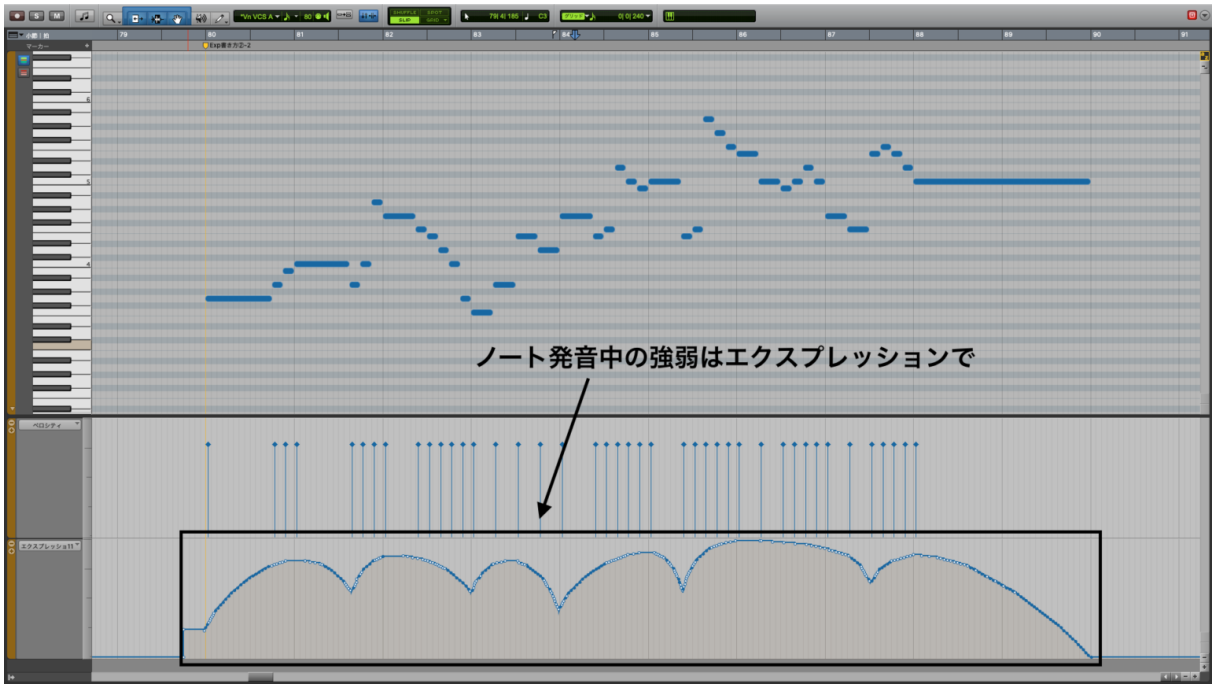


©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO

OTO×NOMA

② 打鍵のタイミングで決定し、その後は変更不可

ベロシティの値は打鍵のタイミングで決定するため、一度値が決まってしまうとその後は変更できない。したがって、ノートの再生中に音量を変更したい場合は、エクスプレッションを用いて音量をコントロールしよう。



©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO

OTO×NOMA

③ ベロシティによって音色も変化する

多くの音源は、よりリアルな演奏感を実現するために、ベロシティ値によって異なるサンプルが再生されるようプログラムされている。（＝ベロシティレイヤー）これにより、実際の強弱にマッチしたサウンドが自動的に演奏される。

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO

OTO×NOMA

ホーンセクションにおける
ベロシティの効能

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO

OTO×NOMA

ホーンセクションにおけるベロシティの効能

ベロシティのコントロールによって得られる基本的な効能は以下の２点。

1. 音量の変化
2. 音色の変化

これらについての詳しい解説は、ストリングスのベロシティ解説記事に委ねるとして、ホーンセクションにおいては、後者の「音色の変化」についてより詳しく解説していく。

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO

ベロシティとアタック感の関係（タンギングの強度）

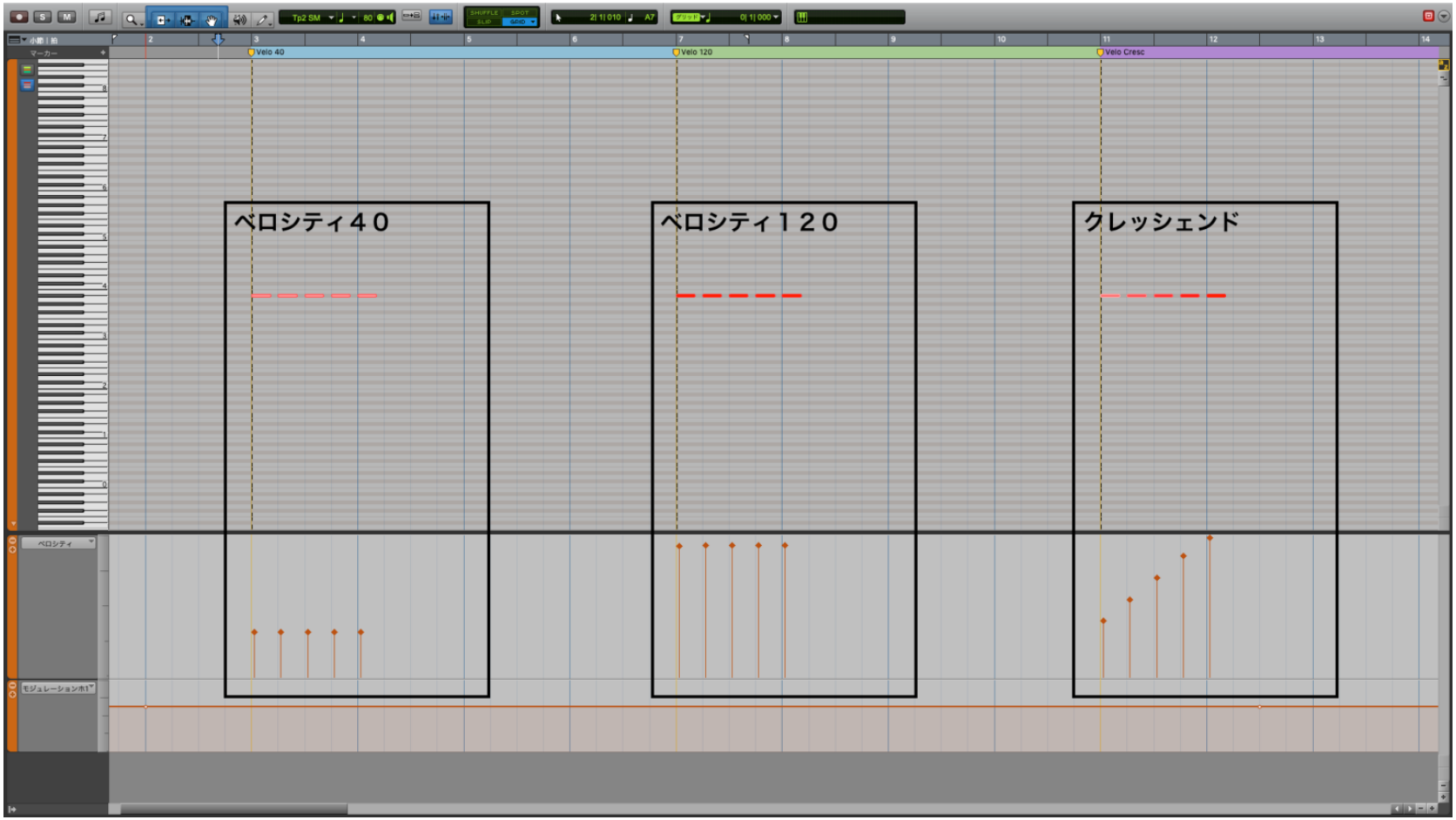
ホーンセクションにおけるベロシティでは、音色の変化、とくに「アタック感の変化」が重要となる。管楽器におけるアタック感の変化とは、すなわち「タンギングの強度」のこと。例えば、

- 強いタンギング＝鋭いアタック
- 弱いタンギング＝柔らかいアタック

といった具合に、タンギングの強さがそのままサウンドのアタック感に直結する。これらをいかに柔軟にコントロールするかが、ホーンセクションのベロシティ設定における最大のポイントとなる点を覚えておこう。

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO

ベロシティとアタック感の関係（タンギングの強度）



©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO

OTO×NOMA

ホーンセクションの
ベロシティ設定方法

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO

OTO×NOMA

ホーンセクションのベロシティ設定方法

1. レガート＆スラーを多用した滑らかなフレーズ
   - フレーズ頭のタンギングを意識

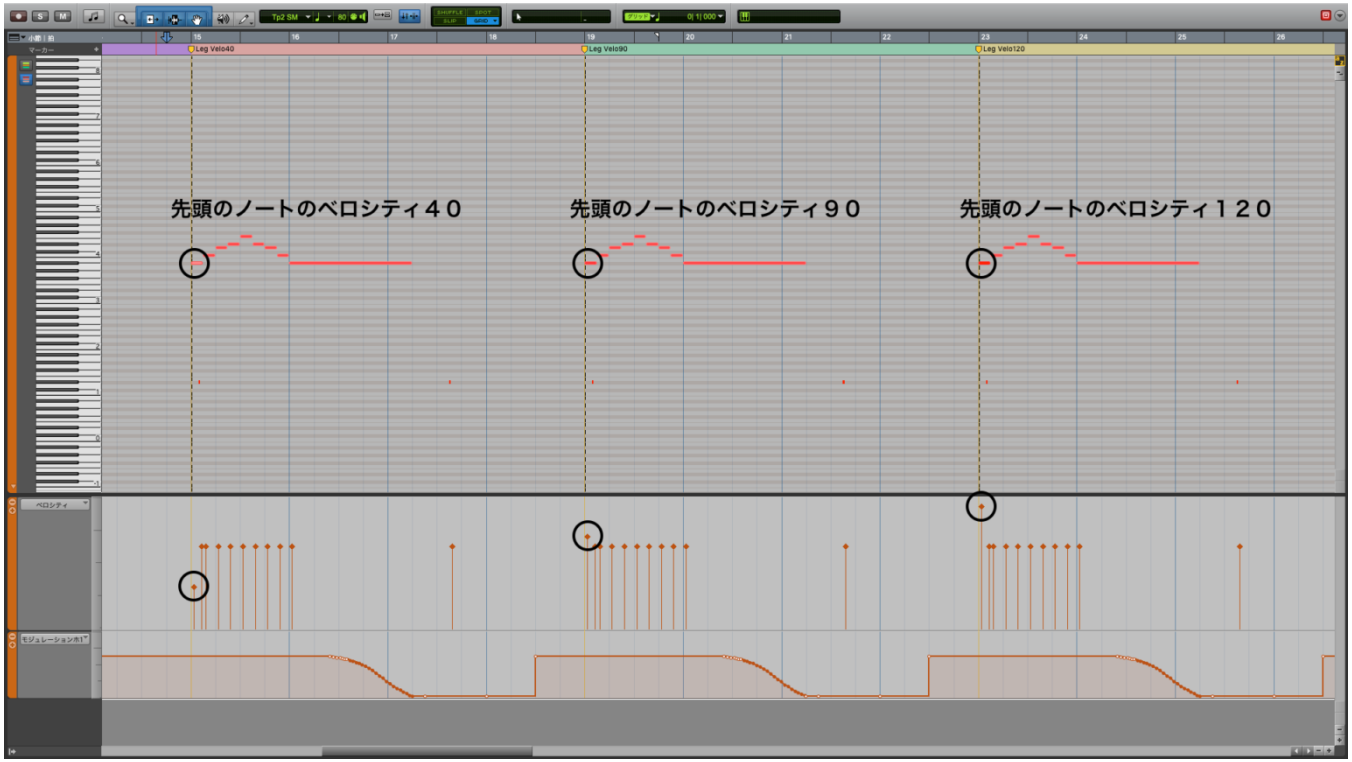
2. スタッカート＆アクセントを多用した歯切れの良いフレーズ
   - 適宜ベロシティを調整

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO

OTO×NOMA

1. レガート＆スラーを多用した滑らかなフレーズ

レガート＆スラーが指定されているフレーズでは、最初の１音のみタンギングを行い、以後はタンギングをせずに演奏する。したがって、頭１音のアタック感を決めるためにベロシティを用い、以後は一定のベロシティで打ち込めばOK。

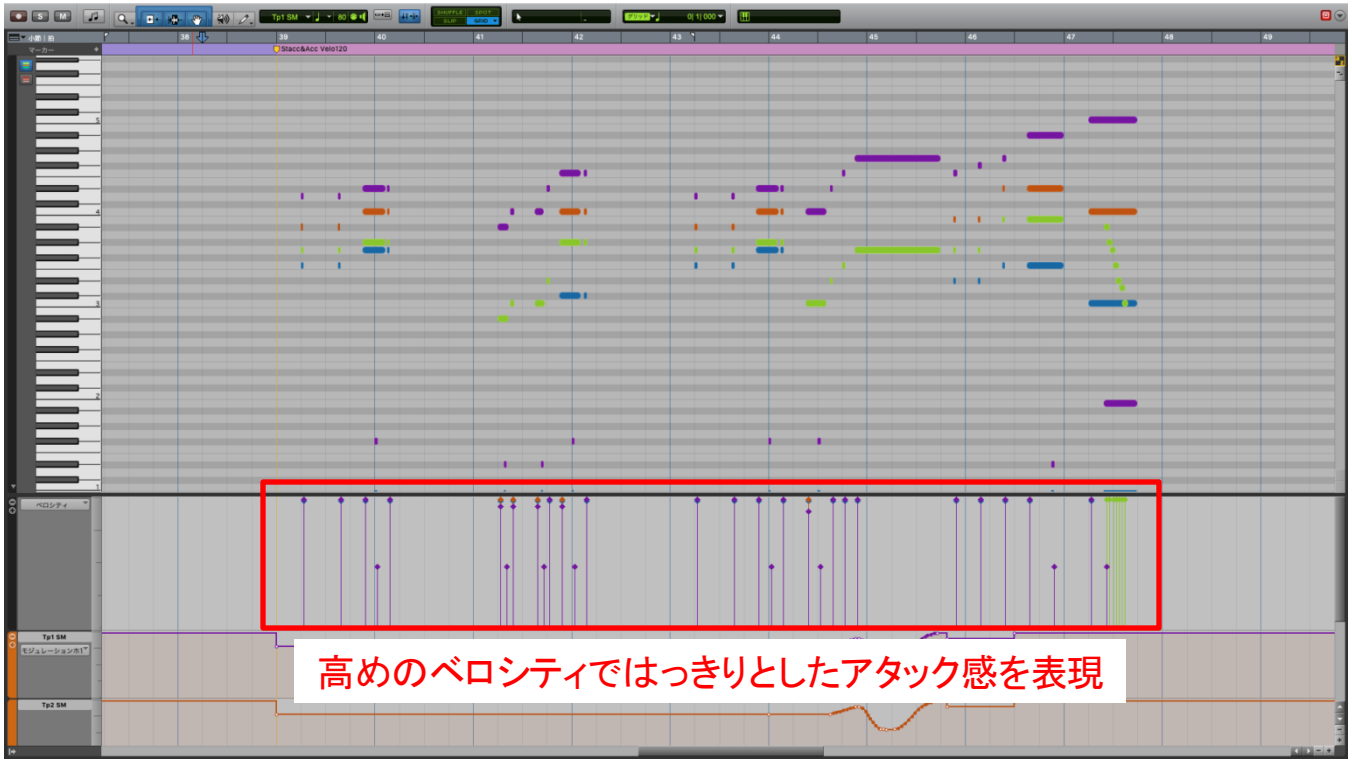


©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO

OTO×NOMA

2. スタッカート＆アクセントを多用した歯切れの良いフレーズ

スタッカートやアクセントを多用したフレーズの場合は、原則として毎度タンギングを行うため、ベロシティの値もノート毎に調整していく。十分なアタック感を実現させるためには、どの音も比較的高いベロシティで打ち込むと良いだろう。



©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO

OTO×NOMA